

平成 26 年度工学系共通経費による顕彰と研究助成 成果報告書

所 属	物質科学専攻・有機・高分子物質専攻
研究者(ふりがな)	安藤 慎治・早川 晃鏡(あんどうしんじ・はやかわてるあき)
タイトル	アジア圏 AOTULE 加盟大学との高分子系学生ワークショップと国際交流
助 成 名	AOTULE 加盟大学との教育研究連携助成
採択金額	750,000 円
<p>背景と目的</p> <p>高分子科学・工学は、戦後に急速に発達した学問・技術分野であり、これまで米国と日本が世界の双璧として研究と技術レベルの高さを誇ってきた。また、東工大は日本の高分子研究の中心として、数多くの成果と教員数を有してきた。しかし、近年の東アジア諸国における研究・技術レベルの成長には驚くべきものがあり、韓国・台湾・中国・シンガポールはまさにその中核となっている。東アジア諸国では、産業界の研究開発レベルが未だ十分でないため、国立工科系大学院と国立研究所が基盤研究だけでなく応用・開発研究も担っており、特に AOTULE メンバー校である KAIST, 台湾国立大, 清華大, 南洋工科大の4校は、極めて高い研究開発のアクティビティと人材養成力を有している。次代の日本の化学産業・高分子産業を担う東工大の院生にとって、これら4大学の大学院生と若い時代に深く交流し、自らの研究成果を伝えるとともに、彼らの研究姿勢や人生観を知り、かつ長期の交友関係を構築することは極めて意義深い。</p>	
<p>実施概要</p> <p>本年 11 月 28 日から 12 月 3 日にかけて、AOTULE 加盟のアジア4大学(韓国・KAIST, 台湾・国立台湾大、中国・清華大学、シンガポール・南洋工科大)から博士課程または修士・博士一貫課程の大学院生計 9 名を東工大に招待し(渡航費と宿泊費を補助)、東工大の高分子科学系専攻(物質科学専攻、有機・高分子物質専攻)および国内3大学(首都大学東京、群馬大学、岡山大学)の大学院生とともに、英語口頭発表を中心とする国際学生ワークショップ(WS)を行った。また、翌日は関連の国内学会に参加するとともに、東工大の学内ツアーと関連研究室訪問を実施して学術・文化交流を行った。すべてのプログラムは、東工大院生と海外招待学生の協働で行われた。</p> <p>11 月 29 日 各国(韓国・台湾・中国・シンガポール)から来日。歓迎夕食会。</p> <p>11 月 30 日 終日「AOTULE 高分子系・国際学生ワークショップ」を開催し、聴講と口頭発表(東工大蔵前会館、10 時～18 時)に加え、相互大学紹介と懇親会。</p> <p>12 月 1 日 終日「第 22 回日本ポリイミド・芳香族系高分子会議」に参加し、聴講・ポスター発表(東工大蔵前ホール)</p> <p>12 月 2 日 午前:東工科大学内ツアー(博物館、図書館、EEI 棟など)、午後:高分子系5研究室を訪問し、院生や教員との相互交流・ディスカッション。送別茶会。</p> <p>12 月 3 日 帰国。</p>	

本年度の成果

国際学生 WS は、英語による口頭発表(発表 10 分+質疑 5 分)を基本に、東工大の院生が中心となって企画・実行し、教員(日本人7名、外国人2名)はアドバイザーとして参加した。東工大工学系からの発表者は8名で、博士課程進学予定または進学に関心のある修士課程学生に主眼において、学内の関連専攻から公募した。これに国内他大学から推薦された大学院生 6 名を加え、合計 23 名の WS とした。発表者に加え、関連研究室から約 20 名の学部生・院生が参加した。どの発表者も十分な練習をしてきたと見え、英語力、発表資料(予稿集とスライド)、学問的内容ともに高いレベルにあり、発表後には活発な議論が行われた。AOTULE 海外大学からの派遣院生については、下記4名の助言教員に選定を依頼し、来日した2名には質疑と研究アドバイスを依頼した。また、今後の東工大院生の短期留学や研究滞在の受け入れを要請し、快諾を得た。

全体のプログラムはほぼ計画通りに行われ、極めて充実したプログラムとなった。昼食時や懇親会も含め、活発な学生間交流が行われ、日本人院生の研究活動と国際的な活躍へのモチベーションと高めることができた。また、相互の交流を通して、学生間に多くの交友関係が構築され、また修士課程の学生には博士課程進学への動機付けができた。

なお、国際学生 WS および交流事業における東工大の助言教員は、安藤慎治、早川晃鏡のほか、石曾根隆 教授・戸木田雅利 准教授(有機・高分子物質専攻)。また、AOTULE 加盟大学の助言教員は、Myungeun Seo 准教授 (KAIST, Graduate School of Nanoscience and Technology), 劉貴生 教授 (台湾国立大・高分子研究所), 王曉工 教授 (清華大・高分子研究所)、Xiao Hu 教授 (南洋工科大・School of Materials Science & Engineering)であった。

本プログラムの様子は、下記 Web サイトに掲示しているので、ご覧いただきたい。

国際学生

WS: <http://www.op.titech.ac.jp/polymer/lab/sando/PIC-2014/IntlStudent-WS/index.html>

東工科大学内ツアーと研究室訪

問: <http://www.op.titech.ac.jp/polymer/lab/sando/PIC-2014/TokyoTech-tour/index.html>

使用内訳書

費 目	内 訳	金 額
備品1		
備品2		
消耗品	ネームプレート・予稿集印刷インク・用紙等	29,739
旅 費	海外招待学生(9名)渡航費+宿泊費	674,821
その他	会場費(蔵前会館大会議室)	23,040
	招待講演者謝金	22,400
合 計		750,000

記入上の注意:

備品は、品名ごとに記入。

差額が生じた場合は、消耗品で調整。

消耗品を購入しなかった場合は、経費の差額と補填した予算科目名を合計額の内訳欄に記入。